

推薦します

奥井識仁

よこすか女性泌尿器科・泌尿器科クリニック院長



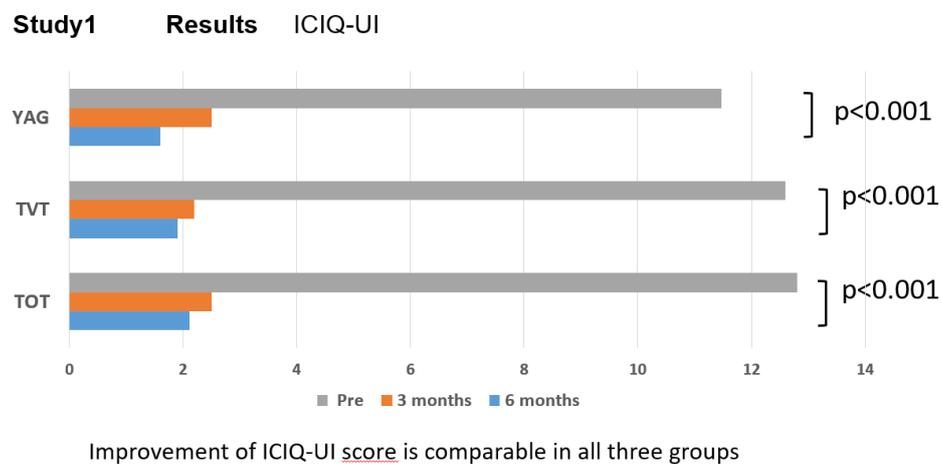
需要が増え続けるレーザー治療の分野

私は、年間 800 件の尿失禁日帰り手術を実施しています。この中で、レーザーを用いた膣の治療は増え、現在年間 300 件ほどです。昨年の 2 倍になっています。尿道や膀胱のアンチエイジングを研究する泌尿器抗加齢研究会の世話人などを通じて、この分野の普及に努めておりますが、まだまだ実施できる施設が少なく、また、泌尿器科や婦人科専門医の資格をもつ骨盤底の専門家による治療が少ないのが現状です。私どもの施設だけでは、とても全国の患者様の悩みに答えることは難しいと思います。

レーザーの治療については、毎日新聞に私の記事『腹圧性尿失禁の新治療「レーザー手術」』がありますので、ぜひお読みください。→記事①

確実性の高いインティマ・レーザー治療

インティマ・レーザーは、フォトナ社による新しいレーザーです。表面にやけどを負わずことなく、深部にまでレーザーが届きます。このことで、コラーゲンが増え、尿道や膀胱の周囲の筋肉が成長します。レーザーの治療をして4週間たつと尿失禁が改善してくるのがわかります。



このグラフは、アメリカ・レーザー医学会で発表した私どもの治療成績です。一番上のグラフが、レーザーの治療をしたことで、1年間を経過すると尿失禁が実に改善したことを意味します。下の二つは、日本の国民健康保険で許可されている人工メッシュ・テープによる手術治療です。同じように1年後に尿失禁がよく改善をしています。

しかしながら、いま、このメッシュという素材が大変論議されています。イギリスのスコットランドでは国をあげて論争になっています。詳しくは、毎日新聞に載せた私の記事『女性特有の「骨盤臓器脱」最適な治療法は』をお読みく

ださい。→記事②

さらには、TVT と TOT 手術が、高齢者にはリスクが多いのでできません。また、妊娠希望の方にもできません。妊娠希望の方は、最初のお子さんを出産して、次の子供を作るまでの期間をレーザー治療で尿失禁をなおすことができます。

腹圧性尿失禁と切迫性尿失禁を同時に

腹圧性尿失禁は、咳やくしゃみで尿がもれることです。一方、切迫性尿失禁は急に尿意を感じるものです。実は、この2つは同時におこることが多く、混合性尿失禁といいます。

	SIU	Young & old women SIU	SIU with Severe UUI	Effective Period Time
• YAG	↑	↑	↑	2~3 years
• TVT	↑	×	↓	Permanent
• TOT	↑	×	↓	Permanent

このスライドは、2018年に行われるアジア泌尿器科医学会で予定しているものです。TVT と TOT 手術は、人工物を体内に入れるために、混合性尿失禁が悪化しやすく禁忌と言われています。この点、インティマ・レーザーでは、両方とも治療の対象になりますので、安心して効果的です。